

## 足利の活性化を考える

—市民が「いつまでも若々しく生きる」街づくりを目指して—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：足利を活性化させるためにはどうしたらよいと林さんは考えますか。

A：足利がもっている長所を生かしながら、現代社会がもつ問題を解決するという手法で足利の活性化を考えると面白い方法が見つけれられると思います。

例えば、足利には150以上の立派な寺院が星のようにあります。鐘のある寺院も70近くあるそうです。宗教家の皆さんのご努力のお陰と、足利市民が信仰心が厚く寺院を大切になさってこられたためと考えられます。相田みつお先生の作品や、若い頃足利で育ったジョージ秋山先生の作品、売野雅生先生の詩などを読ませて頂きますと、信仰心の厚い足利を感じるものがあります。

美しい山や川、平野と寺院とが相まって内面的充実を求める街として最もふさわしい環境が足利にはあると思います。

ところで、足利市の南に位置する埼玉県には、足利市ほど寺院のあるところは余り見かけられません。足利市に近い東京都内など尚のこと、足利市と比べ寺院を見つけることは困難であると言えます。埼玉県や東京の人々は、墓地つまりお墓を確保するのにとても大変な思いをしておられます。

足利市活性化策の第一は、足利市内外にある寺院にもし可能であればご協力して頂き、埼玉県や東京都の人々ために、菩提寺なって頂くこと。お寺の檀家になって頂いた方は、お墓が足利市内外にあるのですから、定年後は、足利の旧中心街にお住まいになって頂くことであります。

「60歳をすぎた方も含めすべての市民が、いつまでも若々しく生きることのできる街づくり」を足利市の運命を懸けて戦略的に行うべきと私は思います。

昔、小児科が街ごとにあつたように「老人科」の病院を開設して頂くことを奨励すること。若い人と同じ検査をされるだけで弱ってしまう方がおられます。足利市は「老人科」のメッカであると言われる位まで、ホームドクターとして気軽にかかれる「老人科」の整備が大切であります。

「いつまでも若々しく生きる」こと、つまり、病気になったときは別として「余りお医者様にお世話にならずに死を迎えられる身体づくり」を徹底的に、また、戦略的に押し進めれば、一人ひとりの幸福にもつながり、足利に住んでいて、また、移り住んできてよかったと「市民満足度」も100%となります。

どのようにしたら、「いつまでも若々しく生きる」ことができるか、足利市を挙げて熱い議論をし、ほとんどお金がかからずすぐにでも手軽にできる案は、どんどん実行に移すと素晴らしいと思います。

Q：定年退職後の方に人口の多い埼玉県や東京から足利に移り住んでもらい、「いつまでも若々しく生きる」という夢を現実のものにする。そして、市の中心に住んで頂き足利内外のお寺を菩提寺にして頂く。面白い考えですね。まだありますか。

A：60歳以上の方が増えますと、高齢者医療や介護が必要となりますので、医療や介護を担当して下さる方が、圧倒的に不足します。誰に担当して頂くか。埼玉県や東京にお住まいになる「働くシングルマザー」の方に、足利市に移り住んで頂き、医療や介護を担当して頂くことが一番よいと思

います。

つまり、私の足利活性化策の第二は、「働くシングルマザーにとってやさしい街づくりをして、埼玉県や東京都から足利に、それも中心部に移り住んでもらうということ」です。埼玉県や東京都にいる「働くシングルマザー」が住みやすい、また、働きやすい街づくりを足利市を挙げて徹底的に、また、戦略的に押し進めることです。

Q：そんな簡単に「働くシングルマザー」が、埼玉や東京から足利へ来て下さいますかね。

A：思い返すべきは「孟母三遷」<FONT size="-1">(もうぼさんせん)</FONT>の教えです。子どもが最高の教育を足利で受けられ、働くシングルマザーを暖かく迎える環境を整え、上手にPRさえすれば、必ずお子様を連れて来て下さいます。ではどうするか。

もし、足利市の小学校、中学校、高校の英語の授業をすべて英語で行い、英語を聴き取り、読み、書き、話せるという「英語によるコミュニケーション能力」が、学校で確実に身につけば、お母様方は子どものために足利に居を移すことでしょうか。そのためにはどうするか。

足利市の小学校、中学校、高校で英語を教える先生が一人残らず「第二言語としての英語教師」Teacher of English as a Second Language 略して TESL (テスル) の資格 (大学院修士課程修了) をもち、資格取得後も毎年きちんとした研修を先生の職にある間は、ずっと受けて頂くこと。

TESL (テスル) という英語教育専門家の先生方にとって最も魅力的な職場環境を整えることで足利は、日本で一番英語教育に熱心な街になることができます。

足利の小・中・高校で英語を教える先生を一人の例外もなく TESL の有資格者にして、その先生方に職にある間きちんとした研修プログラムを用意して教育技術向上に励んでもらうだけで、孟母三遷の教えの通り、埼玉や東京で働くシングルマザーは子どもを連れ足利に居を移します。その位、子をもつ親は、子どもの教育、とりわけ英語教育の重要性を知り尽くしています。

もし、これに加えて算数や数学の教え方が、足利市の先生は、小学校、中学校、高校の各レベルでどこの学校に行っても日本一に近い程、優れているということになれば、足利の魅力は更に増します。理科教育、国語教育、社会科教育、音楽教育、美術教育、技術科・家庭科教育、保健・体育教育、環境教育、福祉教育、国際理解教育、情報教育、道徳教育、そして最も大切な規範教育と一つ一つの分野で足利のすべての小・中・高校は日本一のレベルだと評価されるようになれば、日本国中のお母様方の注目の的に足利市はなります。すべての科目とは言いませんから、とりあえず日本国民のほぼ全員が困りに困っている「英語教育」からスタートすることをご提案いたします。

Q：今までのお話を少しまとめて下さいますか。

A：はい。

まずは、埼玉県や東京都の 60 歳以上の方に足利内外の寺院の檀家になって頂き、少しずつ、足利市に移り住んでもらい、いつまでも若々しく生活して頂く。そのために、老人病院の設立を奨励したり、質の高い高齢者医療、介護のしくみづくりをする。

埼玉県や東京都の「働くシングルマザー」が住みやすい、また、働きやすい環境を整え、暖かくお迎えし、福祉や医療の担い手になって頂く。

「第二言語としての英語教師」という大学院修士課程修了の方に足利の小・中・高校すべての英語の授業を担当して頂き、足利の小学校、中学校、高校で英語を学んだ子はコミュニケーションの手段として、高校卒業後英語を不自由なく使いこなせるようになることで、お子様ともどもお母様に足利にきて頂く。

埼玉県や東京都の方々に足利市の中心に移り住んで頂くには、どのようにしたらよいかを考えた

結果、今のような

考えをもつにいたりました。

足利のもつ素晴らしさを十分生かしながら、高齢化社会、離婚の多い社会、英語教育の不十分な社会という3つの現実を考え、組み合わせたものです。何万人かの人々が、バランスよく増え、街にも活気が出るものと思います。

すぐそばの埼玉県には、700万人近くの人々が、また、電車で1～2時間の東京都には1千万人以上の方々が様々な現代的問題を抱えながらお住まいになられておられます。足利市が現代的問題を以上のような形で確実に解決することができれば、また、余りお金をかけなくてもいいですから上手にPRできれば、何万人かの人々は足利に確実に移り住むと確信いたします。

Q：ところで、林さんは、足利はどんな街になったらいいと思いますか。

A：美しい山河、自然、数多くの寺院、日本最古の大学「足利学校」、世界最高水準のアパレル文化、食文化、首都東京まで1～2時間という立地。これ以上望めないと思える内容（中身）が足利にはあります。

ベイトソンに「自然と精神」という著作がありますが、「自然と精神」を大切にしながら「内面的充実」、「穏やかな心」を一人ひとりの市民が自分なりに追い求めることのできる街に足利がなったら素晴らしいと思います。

年齢に関係なく、自分の夢や目標に向かいどのような形でもいいから勉強し続け、「いつまでも若々しく生きる」ことのできる街に足利がなってもらいたいと思います。そして最終的には、ジョン・スチュアート・ミルの「自由論」ではありませんが、「人間の個性が最も豊かな多様性において発展することが絶対的かつ本質的に重要だ」〈SUB〉\*〈/SUB〉と思います。

\* ハイエク全集第7巻「福祉国家における自由」春秋社刊 188ページより引用

Q：最後に一言どうぞ。

A：すべての小・中・高校の英語の先生には、十分な研修の機会を与えて頂きたいです。

その一段として、アシスタント・イングリッシュ・ティーチャーとして外国からお招きする先生には、先程ご紹介した「外国語としての英語教師」TESL（テスト）の資格をもった大学院修士課程修了の方のみ採用すること。もしできれば、今の人数の倍か3倍のTESL（テスト）資格者を採用して頂き、今採用している人数よりも多い人数の方には、「小・中・高校で現在英語を教えている先生のための英語教育専門大学院」（はじめは無認可でも教育委員会やNPOが設立主体になり、スタートさせる）の先生になって頂く。現在の小・中・高校で英語の先生をなさっているすべての方に、2～5年かけて徹底的にTESLの有資格者レベルにまでなって頂く。（空いている学校の教室を使用。夜間や休みの日をフル活用。授業料や教材費は一切無料。公費負担。但し教わる方に研修手当を出す必要はないと思います。何年間か留学をしなければ取得できないTESL（テスト）の資格をもつレベルまで足利で先生として本格的な勉強ができるのですから）

韓国の方はなぜ英語が上手なのか。その答えは、この10年位の間には1万人近くTESL（テスト）の資格をもつ英語の先生を入れたからであると言われていました。

この語学教師の資格の存在は、少し外国で語学教育の方法論を学んだ人なら誰でも知ってはいますが、日本では余り知られていません。教育行政の担当者や英語教育にご関心のおありの方は、是非じっくり調査をして頂きたいです。

「先生の教育がすべて」なのが、現代日本の英語教育の最大課題と言えます。

－ 4月17日記－